

公開研究会のお知らせ

東京大学史料編纂所では、戦後長くにわたってマイクロフィルム等で収集した史料画像をデジタル化し、独自に開発した史料画像閲覧システム（Hi-CAT Plus）で検索・閲覧できるデジタルアーカイブズの構築を進めています。その作業は現在、日本史情報国際センターと協働して、海外S科研（科学研究費補助金基盤研究S「マルチアーカイブアル的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究」）グループが推進しています。

その海外S科研も今年3年目をむかえ、研究状況の中間まとめを行っておきたいと思います。そこで、下記のような公開研究会を開催し、第1部はこれまでの研究事業の経過とデジタルアーカイブズ構築の概要について、史料画像閲覧システムのガイダンスを含めた報告を準備しました。また、第2部は、海外S科研の各プロジェクトの活動経過と成果についての報告の場としますので、みなさまには是非ご参加ください。

○公開研究会（第1部）

「東京大学史料編纂所のデジタル画像検索閲覧システムの現状と課題」

日時・場所：2016年6月23日（木）13：30～15：00、史料編纂所大会議室

主催：海外S科研・日本史情報国際センター（共催）

報告予定：

- 1) 総論：林S科研から海外S科研へ（報告者：保谷 徹）
 - 2) デジタル史料画像の管理と画像閲覧システム（報告者：山田太造）
- ※メタデータ付与作業の概要と（国内採訪・海外史料）デジタルアーカイブズ構築の現状：
利用法の紹介もかねて（報告者：浜口誠至・及川将基）
- 3) 採訪史料画像データベース構築における今後の課題（報告者：遠藤基郎）

○公開研究会（第2部）

15：15～17：00 海外S科研各プロジェクト報告

帝政ロシア史料調査（保谷 徹）・カラフトアイヌとの交易帳簿プロジェクト（佐藤雄介）・リハチョフ日記翻訳プロジェクト（有泉和子）／ロシア所在アイヌ・北方史料研究（北大・谷本晃久）／欧米補充調査・古写真=写真史料調査（保谷・谷昭佳）／日独関係史料研究（東大法・五百旗頭薫）／日本・ハワイ関係史研究（歴博・原山浩介）／ポルトガル・モンソン文書の調査（岡美穂子）／倭寇凶像研究プロジェクト（須田牧子）ほか。

海外S科研

研究代表者：保谷 徹